弘前城城址公園のイメージの構造について

岩手大学工学部　正会員　安藤　昭
岩手大学工学部　学生会員　○黒沢　誠
岩手大学工学部　学生会員　吳　尚道

1.まえがき

本研究は，盛岡・秋田と同様，城址公園の一連の研究である。これまでの研究においては各々の城址に関するイメージとその要因との関係が明らかにされたが，イメージの形成過程と要因の変化の関係については明らかにされていない。ここでは盛岡と秋田(おおあきた)の城址(弘前)について，この点から検討を加えることによって城郭に関するイメージの一般的形成過程と要因との関係を明らかにしようとするものである。

2.調査方法

被験者は，弘前大学教育学部学生2,3,4年生，そして弘前市内の3校の中学生（第一中学校・第二中学校・第三中学校）を対象とした。

調査方法としては，まず最初に被験者に弘前城城址公園について知っていることを西洋紙の内部6割ぐらいに画くようにし，そして残された余白にも弘前城城址公園周辺を画くように指示した。また弘前在住年数，城址公園の利用回数を知る目的で，フェイス・シートを使用した。これは在住年数と利用回数からイメージ量というものが左右されるのではないかという考えのもとで行なったものである。また注意事項として調査中は，相談を禁じて自分の記憶だけで画くように指示した。さらに，調査の正確さを期するために口頭で説明しながら黒板に調査方法の要点を書いた。そして調査時間は，今までの調査経験より80分を限度とし，調査時間以内に終ったものは回収し，80分経っても終らぬ場合それを回収する事にした。

3.調査対象地域

調査対象地域としての弘前城城址公園は弘前市の北部に位置している。この城址公園は，盛岡・秋田のものの輪郭が不鮮明であるのに対して，周囲がはっきりとした堀で囲まれ，また公園内には天守閣をはじめ多くの遺構が現存している。そんなわけで当城郭は前記の2城郭とはきわめて異なる性格を有している。このことが，調査対象地域として選定した理由である。

要因		カテゴリー規準
輪郭	C_{11}	境界が不鮮明又は隠れた構造物
	C_{12}	境界が連続しているもの
	C_{13}	孤立しているもの
大きさ	C_{21}	直手門を規準にしてそれより小さい構造物
	C_{22}	直手門と同等の大きさの構造物
	C_{23}	直手門より大きい構造物
形	C_{31}	単純な構造物
	C_{32}	普通又は2,3のブロックからなる構造物
	C_{33}	複雑な構造物
色彩	C_{41}	無装飾の白又は灰色の構造物
	C_{42}	彩色された構造物
	C_{43}	周囲とのコントラストをもつ構造物
材質	C_{51}	不潔な状態，へいなしの構造物
	C_{52}	普通の材料，壁，庭をもつ構造物
	C_{53}	高価な状態，清潔な状態の構造物
使用頻度	C_{61}	殆んど使われない構造物
	C_{62}	普通
	C_{63}	頻繁に使われる構造物
視点強度	C_{71}	公園内遊歩道から殆んど見えない構造物
	C_{72}	公園内遊歩道から普通に見える構造物
	C_{73}	公園付近の道路から見える構造物
新旧	C_{81}	10年以内に築造された構造物
	C_{82}	10～30年位前に築造された構造物
	C_{83}	それ以前から存在するもの
動的要因	C_{91}	構造物自体，その周囲に全く動きのない構造物
	C_{92}	駐車中の車，小数の人々の動きが周囲にみられる構造物
	C_{93}	多数の人々，走行中の車が周囲にみられる構造物
看板	C_{101}	看板，名称を示すものをもたない構造物
	C_{102}	看板，名称を示すものをもつ構造物
	C_{103}	遠方から読める看板，名称を示すものをもつ構造物
象徴度	C_{111}	公園を代表するとはいえない構造物
	C_{112}	どちらともいえない構造物
	C_{113}	公園を代表するといえる構造物

表:スコアづけに用いるカテゴリー基準

4.資料の収集と整理

調査資料の部数は，弘前大学教育学部学生より146部・3つの中学校生徒より235部であった。3つの中学校の選定には，市街化区域内にあることと，そして，公園からの方位と距離とを考慮した。

イメージの形成過程を追求する為の資料の作成方法は，イメージ・マップに出現した公園の要素数に着目し，4段階に分類した。これらの分析結果と前記の盛岡および根田城址における同様な分析結果とから，3城址のイメージの形成過程を比較検討することによって，イメージの形成過程の標準モデルを考察した。

なお，ここでの4分類とは，大学生146部の資料に出現する要素数によって分類したものである。4分類のうちの，イメージの初期段階と最終段階とを，右の図(1)図(2)にそれぞれ示す。

◇凡例◇

■	出現率 75%～100%	○	構造物
▦	〃 50%～75%	⬭	橋
▨	〃 25%～50%	🗀	建物
▒	〃 12.5%～25%	═	道路(内部にある)
□	〃 0%～12.5%	⊔	堀(最外部)

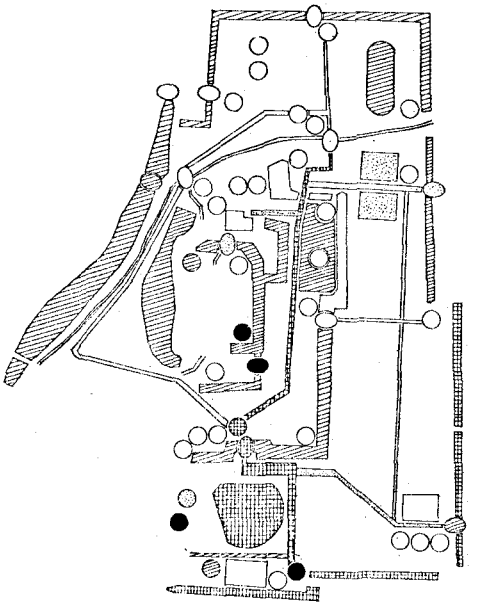

図1　イメージの初期段階

5.公園内構造物のイメージの変化と因子との関係

公園内構造物のイメージ形成過程における因子の変化の関係を明らかにすべく，それぞれの段階において因子分析を行ない，そのウェイトについて明らかにした。

なお，本解析に用いた要因とそのカテゴリーについては，前ページの表に示す。

6.あとがき

イメージ形成過程とその因子の関係を追求することは，イメージの形成構造を知らしめる。そして，イメージの一般化が可能となるならば，城郭の環境計画の際に有力な手がかりとなりえるだろう。

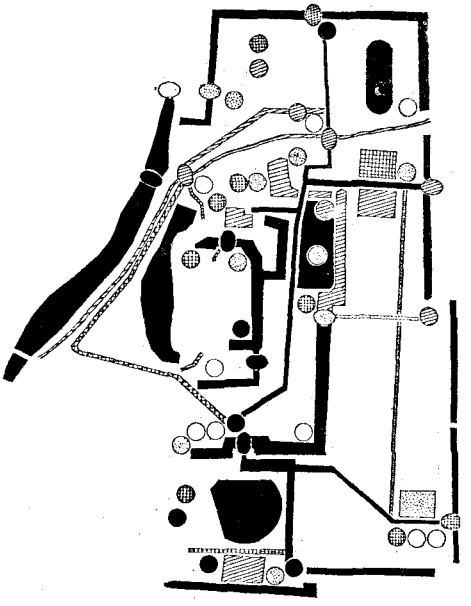

図2　イメージの最終段階

◇参考文献◇

芝　祐順―「行動科学における相関分析法」

林　知己夫
村山　孝喜　〉「市場調査の計画と実際」

ケヴィン・リンチ―「都市のイメージ」